

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和4年第39週 令和4年9月26日(月) ～ 令和4年10月2日(日)

今週： 令和4年第40週 令和4年10月3日(月) ～ 令和4年10月9日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	3,693人	2,883人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	3,198人	2,484人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	495人	399人	↓		
	②対人口10万人（総数）	239.8人	187.2人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	0.81	0.78	↓	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 ^{※3}	40.2%	36.2%	↓	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	99人	92人	↓	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	20.4%	19.0%	↓	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	3人	1人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	4.3%	1.4%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	前週 R4.9/26 ~ R4.10/2	直近1週間 R4.10/3 ~ R4.10/9	累計 R3.3/11 ~ R4.10/9
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	0件	1件	471件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	0件	5件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	15件	11件	358件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第40週（令和4年10月3日～10月9日）

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目も再検討を行い、令和4年10月4日公表分（第39週：先週）から、陽性者数はHER-SYSによる医療機関等からの届け出分と、自己検査によって各自から届けられたセルフテスト陽性者分、およびその合計数としました。第38週までとは連続性がなくなりますが、これにより今後の流行状況の動きの概要を見ることとなります。入院中の患者数・重症者数については変更がありませんので、その傾向は連続して見るができます。

第40週はモニタリング項目変更から2週目になりますが、全項目（入院・重症病床確保数は除く）で、減少となっています。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、医療機関等からの報告数は第39週（前週）3,198名から第40週（今週）2,484名と減、セルフテスト陽性者数は同じく495名から399名と減、総数は同じく3,693名から2,883名と減、となっています。これまでの最大値は本年第30週（第7波）の22,063人です。
- ② 対人口10万人あたりの新規陽性者数は、第39週（前週）239.8人から第40週（今週）187.2人と減、となっています。これまでの最大値は本年第30週（第7波）の1,433人です。
- ③ 前週との増加比は、第39週（前週）0.81から第40週（今週）0.78と減、となっています。これまでの最大値は本年第1週（第6波）の18.0です。
- ④ 検査陽性率は、第39週（前週）40.2%から、第40週（今週）は36.2%と減、となっています。これまでの最大値は本年第30週（第7波）の64.3%でした。

<医療提供体制等の負荷：報告日10月9日現在>

- ⑤ 入院中の患者数は、令和4年第1週23人から毎週増加、第7週335人をピークとして第24週24人まで減少しました（第6波）。第25週41人から毎週増加し第7波と称されるようになり、第31週368人をピークとしてその後減少、第38週105人、第39週（前週）99人、第40週（今週）92人と9週連続して減少しています。これまでの最大値は本年第31週（第7波）の368人でした。

確保病床数は現在合計485床となっています。入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして第24週4.9%まで減少しました（第6波）。第25週から毎週増加し、第31週（第7波）75.9%をピークとして減少が続き、第38週21.6%、第39週（前週）20.4%、第40週（今週）19.0%と10週連続して減少しています。これまでの最大値は令和3年第33週（第5波）の93.9%、本年の最大値は第31週（第7波）の75.9%でした。

- ⑥ 重症入院患者数は、令和4年に入った第1週は0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加し、第6波のピークとなりました。その後減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者0人が5週連続しました。しかし、第26週から増加が続き、第32週（第7波）14人となりました。第33週からは毎週減少し、第38週4人、第39週（前週）3人、第40週（今週）1人となりました。これまでの最大値は令和3年第34週（第5波）の68人、本年の最大値は第8週（第6波）30人でした。

重症者の確保病床は現在69床となっています。重症病床使用率は、本年第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%が第6波のピークとなり第9週2.9%まで減少が続き、第21週から第25週は重症入院患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。しかし第26週2.9%から増加が続き、第32週の20.3%を第7波のピークとして減少し、第38週5.8%、第39週（前週）4.3%、第40週（今週）1.4%となっています。これまでの最大値は令和3年第33週（第5波）の146.7%で、本年の最大値は第8週（第6波）の43.5%でした。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 40（今週）は、オミクロン株 12 件中 BA.2 が 1 件、BA.5 が 11 件となっています。

本市のみならず、全国的に新規陽性者数は減少傾向が続いており、入院患者数、重症患者数も減少が続いています。それに伴って通常の生活が戻りつつあることはとても良いことですが、今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人が基本的な感染症の予防に気を付けていただくことが大変重要です。

新型コロナウイルス感染症が減少している一方、これまで極めて少数となっていた普通にみられていた感染症が顔を出し始めています。これからは冬の食中毒の走りとなるノロウイルス感染症、毎冬話題となるインフルエンザなどがあります。しかしこれらの感染症も、新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。できるだけ三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどになります。また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。

検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。

新型コロナワクチンについて、本市においてはオミクロン株対応ワクチンの接種が始まりました。まだ一度に希望される方すべてに行きわたるわけではありませんが、接種会場・医療機関などに順次配布が続けられています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくことを強くお勧めします。様々な事情でワクチン接種ができない方におかれましては、感染予防に関する注意は強めにして下さいますよう、よろしくお願いいたします。

インフルエンザワクチンも開始されています。高齢者の方など定期接種の対象の方には、接種券が配布されていますが、任意接種として希望される方はかかりつけ医等、医療機関にお尋ねください。子供さんを中心とした定期接種のワクチン、高齢者の方の肺炎球菌ワクチンなどもお忘れなく、できるだけ接種を受けておくことをお勧めします。